

地域経済循環社会



HELLO,
NEW
CITY.

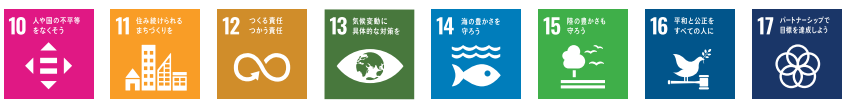
新しいまちの暮らし
スーパースマートシティ
うつのみや始動



「スーパースマートシティ」は、100年先も発展し続けるまちの姿「NCC（ネットワーク型コンパクトシティ）」を土台に、「地域共生社会」（社会）、「地域経済循環社会」（経済）、「脱炭素社会」（環境）の3つの社会が、「人」づくりの取り組みや「デジタル」技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」です。

今回は、「スーパースマートシティ」を構成する3つの社会のうちの1つ、地域内において、経済が循環する豊かな「地域経済循環社会」の実現に向けて、私たちができることを紹介します。

問 産業政策課 ☎(632) 5192



ミヤリー
ねえハッピー、地域経済循環社会って何？

ハッピー
任せてミヤリー。「地域経済循環社会」とは、地域内で人やモノが交流し、お金が循環して、地域経済が発展する好循環が実現された、豊かで活力ある社会なんだ。実現のためには、みんなの力や事業者の成長、地域資源の活用などが必要なんだ。

そっなんだ！社会の実現で、将来の暮らしはどう変わって、どんなまちになるの？

いろいろな未来があるけど、まずは、「成長を続けていくまち」。市内の企業から材料を調達したり、企業に工事を発注したりすることで、市内の経済が回って、豊かになっていくんだ。さらに、たくさんの方のスタートアップ^{※1}が生まれたり、企業同士が一緒になって、次々とイノベーションをおこしたりして、産業が盛り上がりまちの魅力や価値が高まっていくよ。

新しい魅力や価値が、まち全体を元気にするんだね。

うん。次は、「ブランド力が高まり、地産地消で活性化したまち」。宇都宮の農産物などの価値が高まり、地域外で新

※1 新たな技術・技術革新をおこして、新しいビジネスモデルを構築し、短期間に圧倒的な成長率で事業を展開する企業のこと。

誰もが活躍し 交流を生み出す



「スーパースマートシティ」の実現は世界共通の目標である SDGs の達成にも寄与します

ネットワーク型コンパクトシティ



NCC

持続可能なまちの土台

たな利益を生むと同時に、市内の需要が高まって、宇都宮市の農業が元気になっていくよ。農家や加工業者とのつながりが強くなれば、みんなの食卓が、市内でできた食べ物で彩られる日が来るかもね。

地元食材がたくさん食べられる食卓なんて、すてきだなぁ。じゃあ、次は何？

「国内から注目されるまち」だよ。昨年「まちびらき」を迎えたJR宇都宮駅東口地区の「ライトキューブ宇都宮」では、国際的な会議も開催できるんだ。訪れた人たちが宇都宮や県内を観光して、市内消費が増えて、経済が活性化することで、どんどん経済の好循環が生まれていくきっかけになるんだ。*2。

また、「世界に誇れるまち」にもなっていくよ。餃子、大谷、3x3やジャパンカップサイクルロードレースなどの国際的なスポーツイベントとか、宇都宮には世界に誇れる魅力がいっぱいあるよね。

宇都宮の魅力が国内外に広がって有名になっちゃうね。

次のページからは、将来の宇都宮の暮らしを豊かにするために宇都宮市で取り組んでいることを紹介していくよ。

*2 全国規模の大会の誘致・開催を推進することで、県内市町も巻き込んだアフターコンベンションの提供などを行い、県全体の経済の活性化が期待されます。

向けた 本市の取り組み



地域経済循環とは

以下の3つの経済的局面における「資金の循環」と「地域の内外における資金の流入」を行うことです。地域内で経済を回すとともに、地域外からの資金を呼び込むことで、地域経済循環は拡大します。

▼生産・販売

「支出」によって得られた資金を基に、商品やサービスに付加価値をつけて生産・販売。

▼分配

「生産・販売」によって得られた資金を、従業員の給与や企業の利益として分配。

▼支出

「分配」によって得られた資金を使った、日常生活の消費や企業による設備投資 など。

所得向上 の利益向上



内で配

地域内
循環

地域内で 支出

地域内支出の促進

便利で快適な都市空間の創出

▼街なかへの百貨店や大学、専門病院などの多様で魅力的な都市機能の充実や、身近な地域拠点へのスーパーマーケットや診療所、子育て支援などの生活に便利な施設の充実を図ることにより、便利で快適に生活できる環境を整えます。

地域内企業間取引の促進

▼「宇都宮市リーディング企業」を始めとした、市内の中核企業を中心に、関連企業やスタートアップ企業などとの、地域内の企業間ネットワークの構築を促進します。



▲宇都宮市リーディング企業認定式(令和3年度)

農産品の地産地消の推進

▼「うつのみや地産地消推進店」の取り組みなどにより、安全・安心、新鮮でおいしい宇都宮市産農産品を、買って、食べて応援する環境づくりを推進します。



▲うつのみや地産地消推進店マップ

魅力ある商店街などの支援

▼中心商業地や空き店舗に新規出店する際の費用や、商店街の魅力向上させる取り組みを支援することで、地域内での消費の向上を図ります。



▲商店街(宇都宮中心商店街活性化委員会)が行うイルミネーション事業

地域外からの消費・投資

みやビジネス機会の創出

MICE誘致の推進

▼戦略的にMICE誘致を推進することで、交流人口の拡大による、地域外からの消費の呼び込みや新たなビジネス機会の創出など、地域経済の活性化を図ります。



▲宇都宮駅東口交流拠点施設「ライトキューブ宇都宮」

地域外販売力の強化

▼ECサイトの活用や都内に設置した「宇都宮サテライトオフィス」を活用した東京圏企業とのビジネスマッチングなどを通して、地域外販売力の向上を図ります。

「宇都宮サテライトオフィス」が入居する虎ノ門ヒルズビジネスタワー(東京都)



※企業などの会議 (Meeting)、企業などが行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う大会・学会・国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、多くの集客・交流が見込まれるビジネスイベントの総称。



地域経済循環の促進に

地域経済の循環を促進します！！

地域内での「人」や「モノ」の交流を促し、地域内における経済が循環する豊かな社会を実現するため、宇都宮市ではさまざまな取り組みを進めています。

本市が取り組んでいる主な事業などを地域経済循環を構成する、「生産・販売」「分配」「支出」の3つの経済的局面から、それぞれ紹介します。



市民の
市内事業者

地域分

地域
循

地域内企業の生産力・販売力向上

付加価値創出
生産・販売

食料の生産・流通基盤の整備

- ▼農業の担い手への農地の集約化や、水田の大区画化などを実施し、農業生産の効率化と収益力の向上を図ります。
- ▼中央卸売市場の機能強化やにぎわいエリアの整備により、生鮮食料品の安定供給と、新たなにぎわい・交流の創出を図ります。

デジタル化の促進による 経営力と生産性向上

- ▼中小・小規模事業者のデジタル化を支援することで、各事業者が抱える多様な課題に的確に対応し、持続的に成長できるよう、経営力や生産性の向上を図ります。

新商品の開発や販売の支援

- ▼商品の開発や販路の開拓を支援することで、農産物や製品に付加価値を生み出し、生産者の稼ぐ力を強化します。

工場やオフィスの誘致

- ▼企業の生産や活動拠点の国内・地方回帰などの潮流を的確に捉え、市外からの新たな工場やオフィス企業の立地を促進することにより、生産力・販売力の向上と働く場所の確保を図ります。



▲栗農家と老舗和菓子店で共同製作した商品「御菓」



▲内陸型の工業団地では、国内最大級の清原工業団地

都市の魅力の向上

国際的スポーツイベントの開催

- ▼ジャパンカップサイクルロードレースやFIBA 3×3ワールドツアーなどの本市が誇る国際的スポーツイベントの開催や、スポーツツーリズムの推進により、地域外からの人や消費の流入を促進します。



▲2022ジャパンカップサイクルロードレース（森林公園周遊コース）

地域外からの消費の呼び込

魅力あふれる観光の振興

- ▼餃子や大谷をはじめとした観光資源の周遊環境の整備や、地域資源の磨き上げによる新たな魅力の創出に取り組むなど、魅力ある観光地域づくりを推進し、地域外からの人や消費の流入を促進します。



▲3年ぶりに開催された宇都宮餃子祭り2022

生産者から消費者への循環



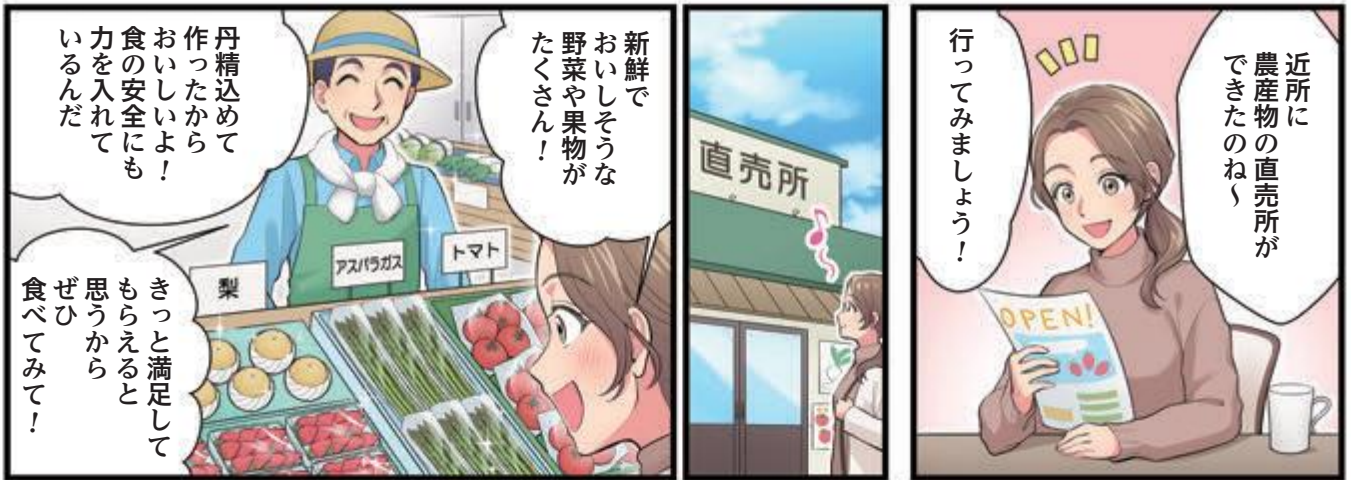
山内さん(34歳)

子育て中の専業主婦。趣味は料理。食材選びに凝っていて、新鮮で安全・安心な食材を常に求めている。特に地元食材を生かした料理を、家族に食べさせたいと思っている。



伊藤さん(54歳)

市内の野菜農家。安全でおいしい野菜作りに力を入れている。最近では、企業と共同で6次産業化商品^(※)を開発。地元食材の魅力を多くの人に知ってもらいたいと思っている。



※農業者が、農作物の生産（1次産業）に加え、加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）まで一貫して手掛けた商品、農産物の付加価値を高め、収益力の向上を図る取り組み。



モデル2

まちの魅力をみんなで伝えよう 地域経済循環社会

まちの魅力を市外へ発信



池田さん(28歳)

市内で働くサラリーマン。生まれも育ちも宇都宮市の「宮っこ」。趣味はSNS投稿で、市内の魅力を発信している。仕事を通じて、宇都宮市を全国の人に知ってもらいたいと思っている。



高橋さん(29歳)

都内で働くサラリーマン。営業で全国を回りながら、出張先でのグルメ観光が趣味。SNSでの口コミ情報のチェックに余念がなく、観光名所には必ず足を運ぶ。現在、家族旅行を計画中。



地域経済循環社会の実現に向けて

地域経済循環社会の実現に向けて、私たちが取り組めることなどについて、市内で企業活動に取り組んでいる皆さんに、お話を伺いました。

高い都市ブランド力を生かして地域経済循環社会の実現を

地域への誇りを育み 地域を活性化させる 地域経済循環社会

戦後の高度経済成長期においては、道路や新幹線などのインフラ整備が地域経済をけん引してきましたが、その後は、医療福祉や教育の充実が、地域に人や企業を呼び込む要素となりました。加えて近年では、SDGs^{※1}（エス・ディー・ジーズ）などへの取り組みが、人を引き付ける都市の魅力になっています。

現在、若者は仕事やプライベートなどを通じて、地域社会に役立つと考える傾向があり、その若者が活躍できるフィールドを整えることは、私たち大人の役割です。地域経済循環社会をより発展させていくことは、市民の地



域への誇りを育み、さらには地域を活性化させるのです。

地産地消で 地域の恵みに感謝

地域経済循環社会の基本は、「地産地消」にあります。例えば、学校の給食で旬のおいしい地元産物をマイ箸でいただき、残菜は肥料にするなど、日常の「当たり前」を見つめ直し、地域の恵みに感謝する気持ちが大切です。

地域を知り魅力を発信

地域経済循環社会の実現に向けて大切なことが、2つあります。

1つ目は、地域を深く知ることです。地域の産業や、歴史・伝統・文化などを学び、知ることによって愛着が生まれ、地域社会を大切にしている行動へと変化します。こうした若者の意識変化がUJイーターン^{※2}につながり、人口と経済価値の流出を防ぐこととなります。

2つ目は、私たち一人ひとりが宇都宮市の魅力や循環社会の取り組みを積極的に外部に発信していくことです。多くの人に地域の魅力が伝わることで、観光客や企業の誘致はもちろん、移住や定住の増加にも貢献できるのです。

都市の総合力発揮に期待

宇都宮市は、街が目に見える形で変化しており、ネットワーク型コンパクトシティの形成とともに地域経済循環社会が整いつつあります。

宇都宮市の恵まれた立地、交通便利性、産業・文化や観光などの豊かな地域資源は、「都市の総合力」です。この高い都市ブランド力を生かし、MIC^{※2}などを通じて交流を活性化させることによって、宇都宮市がさらに住みやすく、誇りを持てるまちになることを、大いに期待しています。

未来のために、私たちにできることは？ 読者の声をお聞かせください

広報うつのみや^{プラス}は、年に数回編集します。55ページのはがきで、テーマに対するご意見をお寄せください。

広報うつのみや⁺
誰もが活躍し 交流を生み出す
地域経済循環社会

についての問い合わせ先
産業政策課

☎(632)2439、FAX(632)2447

✉u2305@city.utsunomiya.tochigi.jp

ID 1030447



▲市印

※1 「持続可能な社会」を実現するために、2030年までに達成することを目指している、17の目標。

※2 地方から都市へ移住した後、再び地方へ移住するUターン、地方近くの中規模な都市へ移住するJターン、地方から都市または都市から地方へ移住するIターンの総称。



ヒトやモノの交流が地域経済循環を促進

地域課題を解決する 地域商社

私たちは、道の駅やアンテナショップの運営、旅行事業、農産物の販売など、多岐にわたるビジネスモデルを展開しています。「地域課題の解決」を掲げ、埋もれがちな地域資源を発掘・磨き上げた上で、多くの人に提供する地域商社の役割を担っています。

魅力的な地域資源を プロデュース

宇都宮市は、魅力的な地域資源が豊富で、ポテンシャルが高いと感じています。私たちは、農産物をプロデュースする時に、栽培方法や品質へのこだわりを「ス



ファーマーズ・フォレスト
代表取締役社長 松本 謙さん

トリー」として付加し、小売店や消費者に提案しています。生み出した新たな価値を、地域に還元することで、地域経済循環に貢献しています。

販路拡大と商品づくりの支援

新たな販路拡大の支援として、生産者が生産に集中できるように、農産物の集荷・配送ルートを整備し、首都圏のスーパー約200店舗への販売ルートを確保しています。

また、消費者の意見を生産者に伝え、6次産業化を含めた商品づくりを支援するなど、生産者と消費者をつなぐことで、より魅力的な商品開発を後押ししています。

持続可能な 経済に向けた取り組み

宇都宮市が持続的に発展していくため、市民の皆さんにも、農産品を始めとした地域の魅力的な資源を届けたいと考えています。市民の皆さんが自信を持って宇都宮市の魅力を発信すれば、ヒトやモノの交流がもっと活発になって地域経済が循環するはず。私たちも地域商社として、地域経済循環社会の実現に向けたお手伝いのできたらと思います。

企業連携が促す地域経済循環

宇都宮市リーディング企業 として県内企業と連携

私たちは、国内シェア6割を占める、水稲用播種機（種まき機）などの農業用機械の製造・販売などを営んでいます。製品の製造に当たっては、県内15社の協力企業と連携しており、企業間取引などを通し、地域経済をけん引・活性化する企業として、令和元年度に宇都宮市リーディング企業の認定を受けました。

信頼関係を大切にしたい ものづくり

創業初期からお付き合いしている協力企業も多く、工場や現場へも頻繁に行き来しています。お互



スステック
代表取締役 鈴木 直人さん

いの技術への理解や信頼関係が、より良い「ものづくり」の秘訣になっていると考えています。

職場環境づくりと 地域貢献活動

社内においては、社員間の親睦を深めるための助成金や資格取得を補助するなど、自己の成長を促す職場環境づくりに力を入れています。また、今期から、市内の子ども食堂に、農業用機械の製造で培った技術を生かして生産した豆苗を提供するなど、地域への貢献活動に取り組んでいます。

経済の活性化への期待 地域のさらなる 発展に向けて

宇都宮を中心に、県内にはものづくり企業が集積しており、技術力のある企業と連携しやすいことが魅力です。また、首都圏との近接性やアクセスの良さも、経営上の大きな利点と感じています。LRTやライトキューブ宇都宮の整備など、宇都宮市のまちづくりが大きく進展する中、私たちも、企業間の取引や人材の育成などを通じて、地域経済循環社会の実現に寄与していきたいと思えます。